

Collège de France
Philologie de la civilisation japonaise
2018-2019

Le Roman du Genji:
Poésie, langue et bouddhisme
8. Le 26 février 2019

- *Le chapitre X: Sakaki* -









- 僧都、世の常なき御物語、後世のことなど聞こえ知らせたまふ。我が罪のほど恐ろしう、「あぢきなきことに心をしめて、生ける限りこれを思ひ悩むべきなめり。まして後の世のいみじかるべき」。思し続けて、かうやうなる住まひもせまほしうおぼえたまふものから、昼の面影心にかかりて恋しければ、

- 仏の御するべは、暗きに入りても、さらに違ふまじかなるものを
- 化城喩品：長夜増悪趣 減損諸天衆 從冥入於冥 永不聞仏名

- *kuraki yori / kuraki michi ni zo / irinu beki / haruka ni terase / yama no ha no tsuki*
- くらきより くらき道にぞ 入りぬべき
はるかに照らせ 山の端の月
- (拾遺集1342)
- 性空上人(天台宗 ; 910-1007)

- くらきより くらきになかく いりぬとも
たつねてたれに とはんとすらん
- kuraki yori / kuraki ni nagaku / irinu to mo /
tazunete tare ni / towan to suran

- ありと見て 手にはとられず 見ればまた
行方も知らず 消えし蜻蛉
- *ari to mite / te ni ha torarezu / mireba mata /
yuku-e mo shirazu / kieshi kagerô*
- // あるか、なきかのと、例の、独りごち
たまふ、とかや。

- あはれとも 憂しとも言はじ かげろふの
あるかなきかに 消ぬる[けぬる/きゆる]世
なれば
- *aware to mo / ushi to mo iwaji / kagerô no /
aru ka naki ka ni / kenuru yo nareba*
(XVI.1191)

- 世の中と いひつるものは かげろふの
あるかなきかの ほどにぞありける
- *yo no naka to / iitsuru mono ha / kagerô no /
aru ka naki ka no / hodo ni zo arikeru*
(XVIII.1264)

- 蜻蛉・蜉蝣 // 陽炎・陽焰
- XVIII. 隨喜功德品：世皆不牢固 如水沫泡
焰 汝等咸應當 疾生厭離心

- かけるふの あるかなきかの よの中に
われあるものと たれたのみけん
- *kagerô no / aru ka naki ka no / yo no naka ni /
ware aru mono to / tare tanomiken*

- 榊葉に ゆふしで掛けて たが世にか 神の
み前に 祝ひそめけむ
- *sakaki-ba ni / yuu-shide kakete / ta ga yo ni ka
/ kami no mimae ni / iwai-someken*
- (『拾遺和歌集』 卷第十 神樂歌)

- はなやかにさし出でたる夕月夜に、うち振る舞ひたまへるさま、匂ひに、似るものなくめでたし。月ごろのつもりを、つきづきしう聞こえたまはむも、まばゆきほどになりにはければ、榊をいささか折りて持たまへりけるを、挿し入れて、「変らぬ色をしるべにてこそ、斎垣も越えはべりにけれ。さも心憂く」と聞こえたまへば、

- 神垣は しるしの杉も なきものを いかにまがへて 折れる榊ぞ
- *kami-gaki ha / shirushi no sugi mo / naki mono wo / ika ni magaete / oreru sakaki zo*

- 少女子が あたりと思へば 榊葉の 香を
なつかしみ とめてこそ折れ
- *otome-ko ga / atari to omoeba / sakaki-ba no /
ka wo natsukashimi / tomete koso ore*

- 八百よろづ 神もあはれと 思ふらむ 犯
せる罪の それとなければ
- *yaoyorozu / kami mo aware to / omouramu /
okaseru tsumi no / sore to nakereba*

- 去年、今年とうち続き、かかることを見たまふに、世もいとあぢきなう思さるれど、かかるついでにも、まづ思し立たるることはあれど、また、さまざまの御ほだし多かり。

- 逢ふことの かたきを今日に 限らずは
今幾世をか 嘆きつつ経む
- *au koto no / kataki wo kyô ni / kagirazu ha /
ima ikuyo wo ka / nagekitsutsu hemu*

- 長き世の 恨みを人に 残しても かつは
心を あだと知らなむ
- *nagaki yo no / urami wo hito ni / nokoshite mo
/ katsu ha kokoro wo / ada to shiranamu*

- ながめかる 海人のすみかと 見るからに
まづしほたるる 松が浦島
- *nagamekaru / ama no sumika to / miru kara ni*
/ mazu shio taruru / matsu ga ura-shima